

影山 貴彦

KAGEYAMA Takahiko

教授



【現在の専門分野】

「エンターテインメント」としてのマスコミュニケーション、メディアエンターテインメント

【現在の研究テーマ】

メディアエンターテインメントにおける「華」について

【学 位】 修士（文学）（関西学院大学）

【所属学会】 日本マス・コミュニケーション学会、日本コミュニケーション学会、日本教育メディア学会、日本笑い学会、日本比較文化学会、日本映画学会

■ 主要研究実績

（著書）「華」メディア・エンターテインメントの世界	世界思想社	2003年
おっさん力	PHP研究所	2004年
百恵讃～学生たちと先生の山口百恵	晃洋書房	2005年
就職・勝つヒント	ナカニシヤ出版	2006年
テレビのゆくえ～メディアエンターテインメントの流儀	世界思想社	2008年

（論文）昭和天皇崩御時における新聞メディアのエンターテインメント考		
同志社女子大学大学院文学研究科紀要		2005年
目標としてのお笑いの消失に関する一考察	比較文化研究	2008年
北野武とビートたけし、その笑いに関する一考察		
～「27時間テレビ」と「菊次郎の夏」を題材に	笑い学研究	2009年
映画「ディア・ドクター」における笑いの効果	笑い学研究	2010年

■ 研究・社会活動等

「上方芸能」150号記念懸賞論文優秀賞受賞	2003年
世界にはばたく人材都市大阪のためのメディア戦略（大阪市）	2005年
大阪市広報報道アドバイザー（大阪市）	2007年～
GAORA番組審議委員（GAORA）	2007年～
上方漫才大賞審査委員（大阪府・大阪市協賛）	2010年～

■ 主要な担当授業科目

【大学院】	メディア文化特殊演習E
【大 学】	ジャーナリズム論、メディアエンターテインメント論、放送番組制作、プランニング演習Aなど

テレビ局プロデューサー経験を活かし「メディア・エンターテインメント」を研究する

メディア・エンターテインメント

研究テーマである「メディア・エンターテインメント」は私の造語です。従来、メディア研究の対象はジャーナリズムや理論が中心でしたが、エンターテインメントについて正面から取り組みたいという思いを込めてその名前を付けました。

エンターテインメントというと「遊び」のイメージを強く持たれがちですが、私が研究対象とするのは、時間を埋めてくれる、笑いをもたらしてくれるだけのものとは一線を画した、知的な遊び心を満足させてくれる行為や産物です。私は以前、テレビ局でプロデューサーやディレクター業に携わっていたことから、現場とエンターテインメントのつながりを研究においても、授業においても大切に

しています。それも、「第一線を退いた者が語る」というスタイルではなく、現在もテレビ業界とのつながりを保ち、業界の「いま」をとらえた新鮮な情報を常に仕入れながらの教育・研究活動を心掛けています。

人を惹き付ける「華」はどこからやってくるのか？

研究成果の一つとして、著書『華』メディア・エンターテインメントの世界』（世界思想社）が生まれました。この本は、芸能界で輝き続ける人々が持つ「華」に焦点を当てています。俳優であればとびきりの美形ではないが人気を集めている、また歌手であれば抜群の歌唱力はないが人の心を打つ、といった理屈や技術を超えて人々を惹き付ける「華」について、

BOOK



現代の代表的なスターを挙げて考察しました。また、2002年には『社会人大学院生入門ー社会人だからこそ楽しめる』（世界思想社）を出版。テレビ局在職中に大学院生活を満喫した実体験をまとめ、社会人の大学院の選び方や勉強方法について、具体的なアドバイスを盛り込んでいます。『おっさん力』（PHP研究所）では、格好良くないが肩の力が抜けていて悪くない年の重ね方をして、そんな「おっさん」的生き方のススメを記しています。